

3. 計画の方針と目標

3. 計画の方針と目標

3.1 計画の方針

本県が目指す『社会:誰一人取り残すことのない優しい社会の形成』、『経済:強くしなやかな自立型経済の構築』、『環境:持続可能な海洋島しょ圏の形成』といった基本方向と、これからの社会経済動向、沖縄本島の都市構造やそれを支える骨格交通軸等の将来像を十分に踏まえた中で、県民の日常生活、社会生活、都市活動、観光交流に伴う需要を適切に充足し、脱炭素社会に向けた環境負荷軽減を図るために必要となる、本計画の基本方針を次のように定め、経済、まちづくり、福祉、教育、エネルギーなど幅広い関係者の相互理解を醸成しながら、社会全体において、その実現に向けて取り組む。

◆計画の基本方針

**マイカーに依存しなくても、安心・快適で活力ある沖縄を築く交通社会の実現
(クルマから人中心の社会へ※)**

※目指す交通社会の主役は私たち「人」であり、これまでのクルマ中心の社会から、地域の活力と魅力を生み出すための都市交通政策が欠かせない。このため、まちの賑わいや環境等を重視した地域公共交通を基軸に、少子高齢化、地域の活力維持、医療・福祉・商業等の生活機能確保を通して、人々が安心・快適に暮らせるよう地域公共交通と連携したまちづくりを目指すものである（コンパクト・プラス・ネットワーク）。

3.2 計画の目標

掲げた計画の基本方針に基づき、計画の目標を次の4点設定した。

◆計画の目標

目標1 都市活動を支え、都市構造を誘導する効率的な公共交通体系の構築

- (1) 中南部都市圏における市街地と一体的な骨格軸を誘導する公共交通体系
- (2) 都市の活動圏域やまちづくり動向を踏まえた効率性に優れた公共交通体系
- (3) 各1次生活圏でもより高次の都市サービス享受を支援する公共交通体系

目標2 県民全ての安全・安心で健康的な暮らしを支える交通環境の創出

- (1) 子ども世代から、健康的で安全な暮らしを育む交通環境
- (2) 高齢者等でも、快適な生活を楽しめる交通環境
- (3) まちづくりとも連携し、誰もがゆとりある生活ができる交通環境

目標3 誰もが快適に沖縄観光を楽しめる交通体系の整備

- (1) シームレスな観光の実現に向けた交通拠点間の連携強化
- (2) 多様な交通モードが選択できるような観光・交通まちづくりの推進

目標4 地域・事業者・行政等が一体で取り組む、持続可能な交通社会の実現

- (1) 過度なマイカー依存型社会からの転換に向け、関係者が協力して取り組む交通社会
- (2) 県民・事業者・行政の全てが経済的にも持続可能な交通社会